

同志社大学体育会空手道部

創部1937年（昭和12年）

OB・OG数 約700名

- ・第二次世界大戦をはさんだ激動の歴史の中、汗と友情による切磋琢磨で継続
- ・常に個性豊かにして且つ文武両道を志す
- ・社会に出ては一騎当千の人として活躍する人間形成を目指す
- ・「武」の心を重んじ、「スポーツマンシップ」との融合を目指す
- ・自由な気風の中で自分で自分を鍛え、学生生活を謳歌する
- ・皆の力を借りて自分の向上を計り、自分の力で皆を支える
- ・空手道部の4年間で養って欲しい心「忍」「熱」「誠」
- ・群馬安中藩の武士であった校祖新島襄先生の激烈な教えを道場の正面に掲げ、練習に励んでいる

「男子一戦して敗るとも己むなかれ。再戦して己むなかれ。三戦して己むなかれ。刀折れ矢尽きて己むなかれ。骨砕け血尽きて己むべきのみ真理のために擲つにあらざれば、吾人の生命もまた無用ならずや」

- ・同志社大学体育会空手道部は「空手の技」「心の技」を磨く鍛錬の場である
- ・「拳修塾」護身武術空手研究会

1994年（平成6年）昭和23年卒の大先輩である故藤本博先輩を師範として発足  
学生時代から空手道を修練し、又はスポーツカラテとして親しんできた人達が心身の健康と生涯武道を兼ねて、沖縄空手の原点である中国福建少林南拳を研究すべく集まった同好会である。同志社卒業生に限らず他大学出身者にも門戸を開いており、参加者が30代から80代までの約25名が励んでいます